

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区	前年度学校関係者評価の主な内容 ・小学校も中学校も元気大賞や文部科学大臣表彰を受賞するなど、良く頑張っている。目指すところも良くわかる。良くやってもらっている。 ・キャリア教育に様々な取り組み、子どもの生活の一部になったと思う。来年度に繋げて欲しい。 ・各校とも、目標を立てて、地域と1つになって取り組まれていて素晴らしい。	児童生徒の現状 ・小中学校とも落ち着いた温かい雰囲気の中で、学び合ったり、教え合ったりする姿が多く見られている。 ・全国調査質問紙の主眼的・対話的で深い学びに関する項目の肯定的評価は5校とも良好である。 ・体育委員会が企画・立案の体力づくりイベント等の実施により、「運動が好き」「進んで体力向上を図った」と答える子どもが増えている。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	チャレンジ&チェンジする力、自己理解力、自己表現力 ・自分の目標達成に向けた計画を立て、取り組む児童生徒。そして、その取組を定期的に振り返り、改善策を考える児童生徒。 ・自分の将来の夢や目標を持つ児童生徒。 ・自分の思いや考えを相手に分かりやすく説明する児童生徒。 ・地元事業者や地域の方と育成したい資質・能力を共有しながら、出前授業、探究学習、職場体験学習、面接など、様々な取り組んでいく。
---------	---	---	---	--

III 自 校

ミッション
地域から愛され、応援される学校づくりを行う。
学校教育目標
心豊かに 自ら学ぶ子どもの育成
現 状
<児童> ○落ち着いた学習に取り組む児童が多く、「学ぶことが楽しい」児童（全校）は、88.7%。R5全国学力・学習状況調査（6年）では、国語・算数とも全国平均を上回り、主体的・対話的で深い学びに関する質問紙項目も概ね高い数値である。 ○地域に出かけたり、地域の方から学んだりする場が多くあり、「地域が好き」な児童は96.6%と高い。 ○自分の興味や関心のあることに自ら取り組む週末の「わくわく学習」が定着し、主体的な学び方が浸透してきている。 ●CRT や学びの伸び調査、全国学テ等の学力調査において、正答率 40%未満の児童が、20%程度いる。 ●学力が定着できていない児童の実態を細やかに把握することが不十分で、適切な支援が行われていない。 <授業> ○理科の研究を継続して行い、理科が好きな児童の育成や自信をもって理科の授業を行うことができる教員が育っている。 ○自分の考えを友だちと交流したり教え合ったりする学習方法が好きな児童が多い。 ●理科以外の教科・領域の授業について学ぶ機会が少なく、様々な教科の本質にせまる学びづくりについて研修したいという教員が多い。 ●対話や表現を取り入れる授業展開や場づくりに躊躇し（コロナ禍）、学び合うスタイルの授業づくりが十分できていない。

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)		チャレンジ& チェンジする力	自己理解力	自己表現力
めざす 子ども像	1・ 2年	苦手なことでも最後まであきらめずにチャレンジしている。	自分の好きなことややってみたいことをもち、自分のよさを理解している。	自分の思いをもち、相手に伝えている。
	3・ 4年	失敗を恐れずチャレンジし、失敗してもそれをもとに次どうすればよいか考えている。	自分の好きなことややってみたいことをもち、自分のよさと課題を理解している。	自分の思いや考えを多様な表現方法で堂々と表現している。
	5・ 6年	リーダー性を身につけ、課題を解決するためにチャレンジし、改善しようとしている。	自分のよさや課題を理解し、よさを伸ばし、課題を克服しようとしている。	自分の思いや考えを根拠を示しながら工夫して表現している。
研究	テーマ	自分の考えをもち、学び合う授業づくり ～学びを楽しむ子どもの姿を引き出す授業者の挑戦～		
	内容等	○学び合いを取り入れ、確かな学力をつける。（全教科・領域） ○単元を通して、科学的思考力が向上する学び方の実践。（理科）		
めざす授業の姿		① 教材研究と児童理解をもとにした授業。（40%未満児童への支援の充実） ② 必然的な学び合いのある授業。（子ども主体の学びづくり） ③ 自己肯定感や達成感のもてる授業。（わくわく学習との往還） キーワード「記号接地」		

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営 目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	力以 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期中期経営 目標の達成状況	力以 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
4	子どもが 学びに向 かう力、学 び続ける 力、なりた い自分に 向かう力を 育成する。	★	継続	目標達成のため の方法を考え、 粘り強く取 り組む子ども を育成する ＜チャレンジ& チェンジする力＞	①教材研究と児童 理解に基づいた授 業を行う。(研究部) ②40%未満の児童 への支援を考えて 授業に臨む。(研究 部) ③児童会役員、学級 代表を中心に目標 をもって行事や日 常生活を行う。(特 活部)	①「学びが面白 い」90%以上(児 童) ②国語・算数・ 理科の単元テス トにおいて、 40%未満の児童 10%以下(まと めテスト) ③キャリア大作戦 の事後アンケート で肯定的評価8 0%以上(児童)	□①低中高部会で授業を複 数で考え、深めていった。達成 率88%。 □②40%未満の児童への細 やかな支援を毎時間、取り組 んだ。結果40%未満の児童 4% □③学校行事前に各児童が 目標を設定するとともに、代 表委員会でも目標を決めて 各学級で達成に向けて取り 組んだ。達成率86.5%	3	3	①発達段階に応じ、学ぶことの 楽しさを児童が実感する授業 づくりを行う。(研究部) ②児童の疑問や問いを大切に した課題解決型の授業を行う。 (学習計画・支援)(研究部) ③代表委員や委員会活動、学級 での係活動を地道にやり切る ことを徹底し、全職員でほめ る。(特活部)	□①授業交流を行うことで 授業を互いに振り返り、授業 力を高めた。◎達成率81% □②児童の疑問を引き出し、 学習計画につなげ、主に 算数科で課題解決型の授業 を行った。◎40%未満の児 童3% □③代表委員会、委員会の運営 の仕方を見直し、全職員が関 わりながら、児童が主体的に 運営できる仕組みづくりを行 った。◎達成率92.5%	3	3	3	①授業者自ら学びを楽し み児童の学び楽しさを引き 出す授業づくりをさらに研 究推進していく。 ②児童の疑問や問いを大 切にした課題解決型の授業 を行う。 ③学校をよりよくしよう という目的に向かって児童 自ら考え動くことのできる 自律的な児童会活動になる よう意識を変える取組を行 う。
			継続	自分のよさや 課題を知り、向 上心をもっと 取り組む子 どもを育成する。 ＜自己理解力＞	①自分の興味・関心 や苦手から考えた 「わくわく学習」を 推奨・評価する。(研 究部) ②各学級、帰りの会 などで友達のよさを 認め合う活動を行 う。(特活部)	①「自分のために なるわくわく学 習ができた」8 0%以上(児童) ②「自分にはよい ところがある」 90%以上(児童)	□①月1回わくわく学習発 表会を実施し、通信の発行、 表彰を通して児童の意欲に つなげた。達成率84% □②帰りの会で友達のよさを 伝える場を設けたり、教師 が児童のよさを伝えたりし た。達成率83%	3	3	①各学級でわくわく学習を見 合う活動や評価活動を充実 せ質の向上を意識して取り 組む。(研究部) ②友だちのよさを紹介する「ハ ッピーハートコーナー」を設 け、視覚的によさを実感で きようにする。(特活部)	□①各学級で「わくわく学 習」を見合う活動を行い、感 想を交流するなどして、児童 の意欲につなげた。◎達成率 82% □②各学級で友だちのよさを 認め合う活動を行い、掲示 を工夫したり、朝会で共有し たりして児童の自己有用感を 高めた。◎達成率80%	4	3	3	①「わくわく学習」の 目的を児童と共 有しながら、自分 の「好き」や「やり たい」に向かう学 び方を推奨する。 ②学期に一回のペ ースで実施する など、継続して取 組みを進める。
			継続	思いや考えを 相手や場に して分かり やすく説明 する子どもを 育成する。 ＜自己表現力＞	①授業の中に「学 び合う」場をつ くり、工夫して 発表する力を つける。(研究 部) ②綱引の地域の よさを語る場 面を学期に1 回以上設定す る。(特活部)	①「資料や文章、 話の組立て等 を工夫して発 表している」 80%以上(児 童) ②綱引の地域の よさを自分の 言葉で表現す る児童80% 以上(作文・ス ピーチ等)	□①授業の中で多様な学 び合いの場を設 定し、小集団で 発言する機会 を増やした。達 成率71% □②1、2、3年生の 町探検や4、6 年生の総合、 5年外国語で 地域を題材と した授業を行 い、地域のよ さを語る場を 設定した。達 成率72%	3	2	①自分の考えを分かりやす く表現する方法を指導し、授 業で活用できるようにする。 (話し方・聞き方・書き方) (研究部) ②CSの活動を広げ、放送や オンライン等 を活用し、工夫 して地域のよ さを伝え合う 場を増やす。 (特活部)	□①自分の意見をも ってペアやグル ープで話し合う こと、話の聞き 方について指導 した。授業の結 わりには、本時 の学びを整理す る時間をとって ふりかえりの充 実を図った。◎ 達成率61% □②1、2年生の生 活科、3、4、 5、6年生の総 合においてCS を活用した学習 を実施し、地域 の良さを伝え た。◎達成率100%	4	4	3	①基本的なスキルの 習得を確認し、活 用場面を増やし、 自信がもてる取 組を考え実践す る。 ②CSとしての学 校づくりが進ん できた。 成果・課題を整 理して効果的な カリキュラム マネジメントに つないでいく。
4	教職員が 元気・笑 顔で勤務 できる環 境を充実 する。	★	継続	教職員が実践 力を高めると ともに、やり がいや充実感 を持って教育 活動を行う。	①日常的に授業に ついて語り合い、 認め合う職場つ くりを行う。(教 頭) ②自分の目標を決 め、年間を通して 挑戦していく。(教 頭)	①職員間で「自分 が認められてい る」と感じる90% 以上(教職員) ②「仕事にやりが いを感じる」90% 以上(教職員)	□①少人数の部会研修や 各教科の研修を設 定し、授業につ いて研修する意 識を高めた。「認 められている」と 感じる教職員81.8% □②教職員各自が研 究テーマを設定し、 挑戦している。「 やりがいを感じ ている教職員」 81.8%	3	2	①主任・主事のリー ダーシップのもと 放課後の時間を有 効活用し授業や児 童の姿について 語り合う。(企画 委員会) ②職員の研究テーマ に沿って、授業を 見合い、挑戦を 応援する声かけを する。(企画委員 会)	□①少人数の部会研修 や、他校の研修会 に積極的に参加す ることで意識を高 めた。◎「認めら れている」と感じ る教職員100% □②教職員各自の研 究テーマに沿って 挑戦している。◎ 「やりがいを感じ ている教職員」 100%	4	4	4	①今後も教職員が 悩みを共有し、認 められる職場つ くりを行う。 ②教職員のニーズ に合わせた研究 や研修を行って いく体制を継続 していく。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評価点	評価基準	評価点	評価基準	評価点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。